

論文審査の結果の要旨

報告番号	博（生）乙第17号	氏名	佐々野 好継
学位審査委員	主査 岡 林 隆 敏 副査 武 政 剛 弘 副査 石 松 隆 和 副査 寿 田 彰 秀		
論文審査の結果の要旨			
<p>佐々野好継氏は、1979年3月九州産業大学大学院工学研究科を終了し、1986年3月大阪市立大学大学院博士課程単位取得退学した。その後、帝塚山学院短期大学非常勤講師（1987年12月）、尚絅短期大学講師（1988年4月）、同助教授（1994年4月）を勤め、1997年4月から長崎大学教育学部助教授（現准教授）となり、現在に至っている。</p> <p>同氏は、九州産業大学大学院工学研究科研究生の1979年以来、28年余の研究を続けてきている。その成果に基づいて、2008年11月に、主論文「農村の民家における多機能空間（アダノマ）の構造と変遷に関する研究」を完成させ、参考論文5編（うち審査付き学术论文5編）を付して、長崎大学大学院生産科学研究科に博士（学術）の学位申請を行った。</p> <p>長崎大学大学院生産科学研究科教授会は、平成19年12月19日の第4回教授会において、資格審査委員会による資格審査の結果の報告に基づいて、論文提出による学位論文提出資格を審査し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の学位審査委員会を選定した。学位審査委員会は、主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会で論文内容の説明および質疑応答を行わせるとともに、口頭による基礎および専門分野の試験と外国語（英語とドイツ語の二ヶ国語）の能力判定を行い、論文審査と試験及び試問の結果を平成20年2月20日の生産科学研究科教授会に報告した。</p> <p>提出された主論文の研究目的は、近世民家の平面形式が残されてきた長崎県五島市の農村7集落における伝統的民家の「四つ間型」から近代の中廊下型への変遷過程における住居の空間を構成する原理と、土間の上がり口の一室である「アダノマ」からみた部屋相互間の関係の構造と機能および変遷を実証的に明らかにしたものである。この研究の調査手法は、主として現地調査で、五島市の「浜町」・「吉田」・「崎山」・「黒蔵」・半泊」・「堂崎」・「浦頭」の農村7集落を実施した。調査期間は1984年から1986年の間で、大正から昭和までの建築年代の住居158戸を採取した。調査内容は、屋敷の配置図、住居の平面図（復元図を含む）、住居内設置物（床の間・仏壇・神棚）</p>			

などであり、住居の典型的な事例は写真撮影および実測調査を実施した。

本論文では、まず、長崎県五島市の7集落における「四つ間型」と「中廊下型」を比較分析し、住居の型の構成原理を明確にした。次に、五島市における伝統的な四つ間型の特徴である「アダノマ」を中心とする部屋相互間の関係と機能および変遷について調査した結果、日常的接客空間である「アダノマ」は、「ナイショ」と「ザシキ」に隣接し、「ナンド」とは分離した住空間の構造であることを示した。島根県日南町、岡山県川上村、広島県東城町の民家における「アダノマ」と比較し、五島市の「アダノマ」は「ナイショ」と対になり存在していることが特徴であることを確認した。続いて、「アダノマ」と対になっている「ナイショ」は、大分市、水上市（岩手県）、徳島市の民家の「ナイショ」と異なり、料理の場所として機能していたことを確認した。さらに、五島市に1970年以降建築された「中廊下型」を、「四つ間型」と比較調査分析した結果、「四つ間型」の「クチとオク」の空間軸は、継承されており、さらに、五島市の「中廊下」は、右カギ型を特徴にしていることを明確にした。最後に、五島市における住居の空間は、土間や中廊下の非単位空間の「空」と、単位空間の「間」、および「室」の3要素から構成されていることが明らかにされた。

本論文で得られた成果は、次のように要約できる。第1に、五島市における四つ間型（「アダノマ」、「ナイショ」、「ナンド」、「ザシキ」）は、「ザシキ」を「上」、土間を「下」とする「上と下」の空間軸と、「アダノマ」を「表」、「ナイショ」を「裏」とする「表と裏」の空間軸が存在し、この2つの空間軸は大黒柱で直交し、4領域を構成していることを示した。さらに、この4領域には、「ザシキ」を「オク」、「アダノマ」を「クチ」とする「クチとオク」の空間軸が存在していることも明らかにした。なお、四つ間型の構成原理は、農村民家の広間型や近代の中廊下型においても同じであることを明らかにした。第2に、五島市における「アダノマ」の変遷は、上がり口と「ナンド」で構成されている二間取りの上がり口（非日常・接客・団欒）が、アダ（接客・団欒）と「ザシキ（床の間）」に分化し、さらに、アダが「アダノマ（日常的接客：神棚）」と「ナイショ（団欒：仏壇）」に分化して、成立してきたことを明らかにした。第3に、五島市における民家の「アダノマ」は、江戸時代中期から存続していたが、1970年代頃から建築された「中廊下型」においては、その呼称が消滅したこと、およびその中廊下とそれぞれの部屋が直結する空間構造に変遷してきたことを明確にした。

以上のように、本論文は、民俗学・建築学・生活科学（住居学）分野の発展に貢献するところ大であり、博士(学術)の学位に値するものとして合格と判定した。